

地域再生へ電力地産

太陽光 110カ所・15メガワットに拡大

須賀川 瓦斯 須賀川市

橋本直子社長



須賀川瓦斯（橋本直子社長）は、東日本大震災で自社油槽所が被害を受け、その跡地に10カ所の太陽光発電施設をつくったことをきっかけに福島県内各地で太陽光発電施設の建設を開始した。増設に伴い「電力の地産地消の仕組みを作れば地域再生につながる」と考えるようになり2016年4月、東北第1号の登録小売電気事業者になった。電力顧客は順調に増え、当初目標の1万件は昨年達成。現在は高圧と低圧合わせ1万3千件となっている。電力販売の売り上げは同社全体の約4割にまで拡大した。

電力を「地産」する太陽光発電施設は、今年4月に鏡石町に建設したのが最も新しく110カ所以上が増やすことは避け目。これら合計の出力は15メガワットになる。パネルは野立てが基本で、最近はその形態の顧客を増やし土地の保水力を考慮し、樹木の切り株を残すなどして建設している。これら自社発電施設の売電量に合せてFIT（固定価格買い取り）電気を調達しており、同社の電源構成の約15%を占める。

この比率を増やすことが地産地消の目標に近づくとだが、今後は発電施設の増設ペースを抑制する。この4月からFIT電気の調達価格が市場運動型に完全移行し、FIT電気の構成比を増やせば増やすほど仕入れ価格が不安定化するリスクが高まるためだ。昨年12月、今年1月に卸電力市場が異常に高騰し、同社も大きなダメージを受けたばかり。今後同様のことから、地域を元気にしていくことが起ることを危惧

「再エネプラン」
再生可能エネルギー 100%の環境にやさしいでんき

須賀川ガスのでんき「再エネプラン」受付開始
「再エネプラン」は、実質再生可能エネルギー 100%、CO2 排出量ゼロの環境付加価値の付いた電力メニューです。

既存プラン	再エネプラン
再生可能エネルギー 0%	再生可能エネルギー 100%

※再エネプラン（再エネプラン）を利用して、家庭内再生可能エネルギー 100%及びCO2 排出量ゼロの環境付加価値を付いた電力メニューです。※再エネプラン（再エネプラン）は、再生可能エネルギー 100%、CO2 排出量ゼロの環境付加価値の付いた電力メニューです。

3月から再エネプランの受け付けも開始した



↑太陽光発電 発電中↑
357kw システム 33m² (約10所)

本社入り口で蓄電池をアピールする

太陽光発電施設は、今年4月に鏡石町に建設したのが最も新しく110カ所以上が増やすことは避け目。これら合計の出力は15メガワットになる。パネルは野立てが基本で、最近はその形態の顧客を増やし土地の保水力を考慮し、樹木の切り株を残すなどして建設している。これら自社発電施設の売電量に合せてFIT（固定価格買い取り）電気を調達しており、同社の電源構成の約15%を占める。

この比率を増やすことが地産地消の目標に近づくとだが、今後は発電施設の増設ペースを抑制する。この4月からFIT電気の調達価格が市場運動型に完全移行し、FIT電気の構成比を増やせば増やすほど仕入れ価格が不安定化するリスクが高まるためだ。昨年12月、今年1月に卸電力市場が異常に高騰し、同社も大きなダメージを受けたばかり。今後同様のことから、地域を元気にしていくことが起ることを危惧

とが当社の事業。電気はLPガスやリフォーム、石油や車検整備、酒など当社扱い商品のひとつという位置づけ」と電力小売にこだわらない。現在、一昨年の台風19号で浸水した「須賀川インターSS」を1・6倍にかさ上げして防災型SSに建て替える工事をしていく。太陽光発電やEV充電機も備える。車検整備工場と酒販店舗も兼ね、ガス料金の支払いが、電気取引の受け付けもできる。「生活イン